STAR Programming SCHOOL Lesson08 課題C 実施日 月 Ξ

□を使った足し算の計算ゲームを作りましょう。(例:10+□=30の□がいくつかを答える計算ゲーム です)

- ●背景:rays
- ●スプライト:Ladybug2



STAR Programming SCHOOL

問題1.背景を rays に変えましょう。

- 問題2. Scratch Cat のスプライトを削除した後、Ladybugs2のスプライトを追加しましょう。
- 問題3. 変数: 「問題1」「問題2」を作成し、1~100までの乱数を設定しましょう。
- 問題4. 問題を出すスクリプトを作成しましょう。



- 問題5. 答えが正解の場合の処理を作ります。
 - ・「正解だよ!」と言う
 - ・スプライトの大きさを 20 大きくする
 - ・変数「正解数」を作成し、正解したら1加える
- 問題6. 答えが不正解の場合の処理を作ります。
 - ・「残念!」と言った後、「正解は●●だよ」と言う
 - ・スプライトの大きさを 20 小さくする
 - ・「正解数」を1減らす
- 問題7.問題5(正解処理)の後にゲームクリアの処理を入れます。
 - もし「正解数」が 10 だったら、「計算ゲームクリア!」と言って、全てのスクリプトを止めましょう。
 - それ以外の場合は、次の問題を出します。
- 問題8.問題6(不正解処理)の後に、ゲームオーバーの処理を入れます。
 - 「正解数」が-1になったら全てのスクリプトを止めます。

それ以外の場合は、次の問題を出します。

- 問題9.初期設定をしましょう。(緑の旗をクリックされた時に初期値を設定するようにしておきます)
 - ・「正解数」を0にする
 - ・スプライトの大きさを100%にする
- 問題10.ここまででゲームの基本の動きは出来上がりました。

①実際に計算ゲームをやってみて、処理が正しく動いているのか確認してみましょう

②あとはどんな処理を入れたら、計算ゲームが楽しくわかりやすいものになるのか考えましょう 問題11.ゲームを完成させましょう。

Ladybugs2 にコスチュームを 2 個追加し、ゲームクリアの時とゲームオーバーの時にコスチュームを変えるようにスクリプトを追加しましょう。